



第49回包装情報ステーション

ヒートシール技法の新発見!【特別講演会】

「ヒートシール強さの発現は加熱速さで決まる」

ヒートシールは半世紀以上もの長い間、プラスチック包装材料の利用を支えてきた基幹技法です。しかし、その接着特性の制御に“未知の特性”があり「開封性」と「密封性」の連携に困難さをもたらしています。ヒートシール強さの発現は「温度」、「時間」、「圧力」が関係するとされてきました。

加熱温度に溶着面温度を選び、その精度を0.1℃、溶着面温度の応答を0.01sの分解能でヒートシール強さの発現を正確に計測したところ、ヒートシール強さの発現は加熱速さに依存する現象がポリオレフィン系の材料で共通的に発生することが発見された。【Hishinuma効果】

従来のヒートシールの管理方法の背景にこの現象がどのように関与していたか?「開封性」と「密封性」の連携議論に不可欠な剥がれシールの取り扱い、熱接着に適用するプラスチック包装材料等の取り扱いにどのように対処していかなければならないか。

ヒートシール“未知の特性”を発見者が直接詳解する特別講演会を下記のように企画しました。関係各位のご参加をお待ちしております。

本発見の詳細は「包装技術」2012年2月号 (Vol.50, No.2)に掲載されています。

と き

2012年3月12日(月) 13:00~16:30

と ころ

日本包装技術協会 会議室
(東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F)

講 師

菱沼 一夫 氏 [菱沼技術士事務所[博士(農学)]代表【新現象の発見者】]

主 催

公益社団法人日本包装技術協会

参加費

JPI法人・個人会員の方：5,250円(税込)／1名
一般の方：10,500円(税込)／1名

【講演要旨】

- (1) 従来のヒートシール理論の復習
 - 1) 熱接着(ヒートシール)の特性
 - 2) 従来のヒートシール方法の確認と発見を可能にした計測法
-温度の定義/-時間の定義/-圧着圧の現象と定義/-引張試験方法
- (2) 【Hishinuma効果】の詳細解説
 - 1) カムアップタイム(CUT)と加熱速さ
- (3) 【Hishinuma効果】の実験方法と考察
 - 1) 実験方法の詳細
 - 2) ヒートシール強さの発現遷移の計測結果の考察
 - 3) 現象から診た【Hishinuma効果】の発現メカニズムの推測
- (4) 【Hishinuma効果】の現行方法に潜んでいる混乱要素の解明
- (5) 【Hishinuma効果】の展開
- (6) 質疑と現象解析の意見交換

定 員

50名 (定員となり次第、締切とさせていただきます。)

参加申込方法

- 下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
- 「参加証」と「請求書」は、下記お申込み欄の1番へご記入の方にご送付いたします。なお、受講日の10日前までにお手元に届かない場合は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。
- 参加費の払い戻しはいたしません。参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方のご出席は差し支えございません。

会場案内



第49回包装情報ステーション 参加申込書 (FAX 03-3543-8970) 参加を希望される場合は、下記申込書にご記入の上、本紙をFAXして下さい

会社名				法人会員 ・ 個人会員 ・ 一般
所在地	(〒 -)			
	TEL			FAX
	URL	http://www.		
参加者	①	(氏名)	(所属役職)	
		(e-mail)	@	
	②	(氏名)	(所属役職)	
		(e-mail)	@	

お問合せ先:〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F TEL:03-3543-1189 担当:小川

個人情報の取扱いについて 1) 個人情報は「公益社団法人日本包装技術協会 関東支部 包装情報ステーション」の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに当会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り、配布する場合があります。 2) 参加申込によりご提供頂いた個人情報は、法令に基づく場合等を除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。